

第2章 旧学校校舎等の現状と課題

1 現状

(1) 旧学校施設の現状

児童・生徒数の減少など教育環境の悪化により学校の統廃合が進み、学校としての利用が廃止された旧学校施設は、直近3ケ年で表1のとおり4施設を有する。

表1

地域	校舎名等	種別	休止・廃校年月
友知	旧共和小学校	廃校	平成25年3月
歯舞	旧華岬小学校	廃校	平成25年3月
瑤瑤瑠	旧瑤瑤瑠小学校	廃校	平成25年3月
温根元	旧温根元小学校	廃校	平成25年3月

注1) 現時点で「休校」の種別に該当する校舎等はなし。

(2) 旧学校施設の利活用の実態

全ての旧学校施設は、避難所・避難場所、またドクターヘリ離発着所として利用している実態にあり、一部、旧華岬小学校においては、少年団活動施設等としての利用が認められる。

しかしながら、これらは非常時の利用が中心であり、地域で具体的な活用が行われている1施設を除き、必ずしも旧学校施設の価値を存分に発揮した有効利用と言えず、いずれも低利用財産と整理することができる。

表2

校舎名等	利用状況
旧共和小学校	校舎 : 避難所 体育館 : 避難所 グラウンド : 避難場所、ドクターヘリ離発着所
旧華岬小学校	校舎 : 避難所、教育委員会倉庫 体育館 : 避難所、少年団活動施設 グラウンド : 避難場所、少年団活動施設、ドクターヘリ離発着所
旧瑤瑤瑠小学校	校舎 : 避難所 体育館 : 避難所 グラウンド : 避難場所、ドクターヘリ離発着所
旧温根元小学校	校舎 : 避難所 体育館 : 避難所 グラウンド : 避難場所、ドクターヘリ離発着所

(3) 地域の意向

地域では、旧学校施設以外に避難所や避難場所に利用できる施設がなく、継続的な利用を望む意向が強いものの、旧学校施設の耐震基準をはじめ津波浸水区域に位置する立地条件や、当該施設の著しい老朽化などを踏まえ、その見直しを求める要望がある。

また、旧学校施設が有効に活用されていない現実に対しては、地域だけで活用案を模索するには限界があり、地域外からの活用アイデアに期待する意見も多く、何らかの形で施設の有効活用を望む意向が強い。

2 課題

先の現状を踏まえた時、旧学校施設の利活用に向けた課題等は、以下の5項目のとおり整理する。

特に、全ての項目に関連する将来的な行財政負担を考慮し、今後10年先を見据えた課題の整理を行う必要がある。

表3

項目	課題等
建築物	いずれの施設も著しい老朽化や耐震基準など、今後の維持管理に一定の投資・費用を要する。
立地条件	施設毎に事情は異なるが、津波浸水区域に位置する施設があり、今後の利活用に一定の支障が生じる。
現有機能	避難所等としての機能を維持、又は他に移すことも含め、その在り方の整理が必要である。
将来性	公共施設としての再開発の優先度は低く、中長期的には施設の解体が見込まれる。
地域要望	地域外からの活用アイデアに期待する意見が多く、地域だけで活用案を模索するには限界がある。